
「海の生き物を守る会」メールマガジン No.21

2008. 7. 15 (火)

うみひろも

Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

「今月の海の生き物」 ジュゴン *Dugong dugon*

海産哺乳類海牛目の一種。太平洋の熱帯・亜熱帯浅海域に生息。日本でも南西諸島海域に広く生息していたが、人間による捕獲が原因で沖縄本島以外の島々では絶滅した。オーストラリア、パプア・ニューギニア周辺に多く、過去の推定では世界で10万頭という推定値があるが検証されたことはない。熱帯性海草を専食するため、飼育はきわめて困難である。



(写真はジュゴンの赤ちゃん インドネシア スラウェシ島ブトンにて撮影)

目次 「今月の海の生き物」 ジュゴン

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース
2. 当会の活動予定
3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報
4. 海の生き物とその環境に関する出版物の紹介
5. 事務局便り
6. 編集後記
7. 「うみひろも」と「海の生き物を守る会」について

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース

【全国】

●イルカ類の新捕獲枠を決定 ほとんど変化無し

水産庁は2008～2009年のイルカ類の捕獲枠を新たに決定した。捕獲数は全体で20108頭で、これまでより約700頭減少した。このうち、もっとも多いのが岩手県の突きん棒漁業で、日本全体の4分の3にあたる14680頭。そのほとんどがイシイルカとリクゼンイルカ。イルカの個体数の把握は不十分であり捕獲枠を決める根拠がハッキリしないまま推移していることに、イルカ保護団体では批判を続けている。一方、イルカ・クジラ類の肉が強い重金属汚染にさらされていることは周知の事実だが、消費者への十分な説明もなされていない。

【東北】

●大間原発めぐり地形データ収集

中越地震で原発の耐震性が問題になっている。現在青森県大間町に建設中の大間原発も建設予定地付近に海底活断層が存在する可能性を指摘されたため、電源開発は根拠となっている予定地周辺の隆起地形を近く現地確認することとした。原発を建設するために行うべき最小限のことでありながら、これまで活断層はないと言い続けてきた手前、地形さえも十分把握していなかったことを示すもの。微小な地形データの収集だけが目的とし、2012年の運転開始予定に影響はないという。地形の確認作業は、大間町、佐井村、風間浦村、むつ市脇野沢の沿岸域の数十キロで実施し、「離水ベンチ・ノッチ」と呼ばれる侵食で海面より高い位置にできた地形を調べ、位置、計測、試料採取を行うもの。

中田高・広島工業大教授は、半島北西部にみられる海岸段丘が地震活動の結果だとして、活断層の再審査を求めているが、電源開発は「安全審査での詳細な調査で総合的に判断し

ており、今回の作業で評価が変わることはない」と説明、調査が単なる形式的なものだということ明らかにしている。

【関東】

●小田原の海岸でウミガメが産卵

千葉県に続いて小田原市東町の海岸でもアカウミガメが産卵していることが明らかになった。アカウミガメが産卵に訪れたのは、今月2日午前5:20頃。釣りをしていた地元の建具職原次夫さん（65）が見つけた。体長約1mのカメが穴を掘って涙を流しながら産卵し、砂をかぶせて海に戻ったという。産卵場所は、波打ち際から40m上がった砂浜。小田原市水族館の学芸員小谷野有加さんが調べたところ35-55cmの深さに127個の卵が産卵されていた。小谷野さんは波で砂浜が洗われ卵が流される可能性があるかと判断して、県の了解を得たうえで、市民らの助けを受けながら卵を陸側に約10m移動した。60-80日でふ化する見込みだ。

【日本海】

●砂浜復活へ 高岡市雨晴海岸の海水浴場 海開き直前に急きょ砂入れ

富山県高岡市の雨晴海岸で、砂浜の一部が消失していることが分かり、富山県高岡土木センターは海水浴シーズンを前に、急きょ砂を入れる作業を行うことになった。雨晴海岸の松太枝浜海水浴場は風光明媚な場所として知られているが、先月になって砂浜が5m以上も約50mに渡って消失しているのが発見された。コンクリート護岸がある海岸であるが、護岸の部分まで砂がなくなっているところもあり、護岸のひび割れもある。富山県高岡土木センターは、隣の雨晴海水浴場から砂を合計2,100m³ほど採取し、消失した部分に入れた。けれどもこれでは根本的な解決策にはならない。同センターは毎年9月に「深浅測量」を行っているが、今年は測量時期を前倒ししてデータを収集し、原因を探ることにしている。

【中四国】

●上関原発の海上ボーリング調査を終了

山口県上関町長島に原子力発電所の建設を計画している中国電力は、建設予定地の田ノ浦湾において行っていた詳細調査のうち、地盤や岩盤の強度を調べる海域ボーリング調査を7月初めに終了した。県と約束した環境へ配慮したボーリング方法を自ら無視するなどした中国電力に対しての住民の反対運動や入会地確認訴訟などで1年以上遅れた。陸域ボーリング調査は一時中断していたが、今後再開する予定。埋め立て申請も行い、中国電力は着工を焦っている。

【九州】

●諫早湾排水門の開放を 署名活動を開始

佐賀地裁の開門調査を求める判決に対して、農水省は開門調査のためのアセス調査を行うという前提をつけた上で、福岡高裁に控訴した。開門調査を拒否し続けることはさすがに農水省も難しくなってきたと判断した模様だが、あくまで高等裁判所の判断をまって事態の先延ばしを図っていると思える。

「よみがえれ！有明訴訟原告団」、「有明海漁民・市民ネットワーク」、「諫早干潟緊急救済本部」など 6 団体が行う、開門調査を実施することを求める要請書への署名の呼びかけが行われています。この署名活動にご賛同いただける方はぜひご協力をお願いいたします。

判決文内容、署名活動の詳細は、「いさはや干潟ネット」<http://www.isahaya-higata.net/> インターネット署名もできます。

2. 当会の活動予定

●海の生き物を守る会・長島の自然を守る会 合同観察会・砂浜海岸生物調査

日 時：8月2日（土）

場 所：山口県上関町長島（田ノ浦）

日 程：午前 10:30 蒲井港に集合（柳井港発 9:30 に乗船すれば蒲井港に 10:15 着）

集いの家で昼食後、田ノ浦海岸で砂浜海岸生物調査

集いの家で夕食後、田ノ浦海岸でアカテガニの放仔を観察

翌朝、朝食後解散

指 導：横浜康継（南三陸町自然活用センター）、池澤広美（茨城県立博物館）、向井 宏
（海の生き物を守る会）

参加費：無料

後 援：セブン-イレブンみどりの基金

参加希望者は 090-8563-1501（向井）にご連絡ください。

●「防災と環境の両立を目指して ～白砂青松を取り戻そう～」

ワークショップ

野付半島の自然を守るために（防災と環境の両立を目指して）

【ワークショップの趣旨】

野付半島は砂州とそれに囲まれた浅い野付湾という特徴的な地形に作られたきわめて珍しい自然を持っている。ここにある自然は、寒帯域に特徴的な泥炭層の上に成立した塩性湿地と干潟、およびその後背地に成立した亜寒帯の寒冷地植物群を基礎とし、その基盤の上に成り立った貴重な昆虫や鳥類などを含む生態系を構成しており、道立自然公園やラム

サール条約登録湿地、環境省の重要湿地 500 にも登録されているだけでなく、学術的にも貴重な生態系である。

しかし、近年になって野付半島の砂州が痩せてきており、砂浜の消失が続いている。砂浜の消失の原因は陸と海とのつながりを絶つなどの人為的な営為が大きな原因であり、さらに長期的には地球温暖化による水位の上昇もこの傾向に拍車を掛けている。この砂州でできた野付半島が消失することは、同時に多くの貴重な種や生態系に回復不可能な損失を与えることを意味する。従来手法による海岸保全も計画されているが、野付半島の特殊な自然を守ることが、これまでの防災・海岸保全の手法によって可能なかどうかを検討される必要がある。私たちは日本の自然遺産とも言うべき野付半島の自然を守るために、防災と環境の両立を目指した保全のあり方を検討していきたいと考え、各界の専門家に参加をお願いして以下のようなワークショップを計画した。このワークショップを通して、野付半島の自然を守りながら、よりよい防災・海岸保全を目指した取り組みへの提言を行いたい。

日 時：8月26-27日（26日現地視察、27日話題提供と討論）

場 所：別海町

プログラム：

26日午後14:00～16:00 野付半島および標津海岸・茶志骨海岸の視察

尾岱沼漁港、沖の干潟→標津川河口→標津漁港→野付半島付根付近の砂浜→野付半島先端付近の干潟→トドワラ→ネイチャーセンター→尾岱沼

27日午前09:00～15:00 ワークショップ

会 場：別海町東公民館 大集会室

北海道野付郡別海町尾岱沼潮見町72番地

電話：0153-86-2141 Fax：0153-86-2142

【ワークショッププログラム】

09:00～09:10

挨拶

未定（別海町）

ワークショップ開催趣旨について

向井 宏（海の生き物を守る会代表）

09:10～11:10

1. 生物多様性に関する「温暖化適応策」を考える

鷺谷いづみ（東京大学大学院教授：保全生態学）

2. 鳥の渡りと野付半島の自然

樋口広芳（東京大学大学院教授：鳥類生態学）

3. 野付半島の自然と昆虫

加藤 真（京都大学大学院教授：動物生態学）

4. 野付湾の海の自然と生き物

向井 宏（北海道大学名誉教授：海洋生物生態学）

休憩（11:10~11:20）

11:20~12:20

5. 野付海岸の自然を守る取り組みについて

未定

6. 野付半島の保全計画について

未定

昼食休憩（12:20~13:20）

13:20~14:20

7. 様々な人為改変の結果として沿岸漂砂の連続性が絶たれた砂嘴-野付崎の将来の姿を予測する

宇多高明（土木研究センター：海岸保全工学）

8. 現地から『総合的な沿岸管理』のために

川辺みどり（東京海洋大学准教授：海洋政策学）

14:20~15:00

総合討論（野付半島の保全と賢明な利用に向けて）

司会：向井 宏（海の生き物を守る会：代表）

対 象：研究者、住民、地元および周辺自治体、漁業者、農業者ほか

主 催：海の生き物を守る会（AMCo）

共 催：別海町・標津町（予定）

後 援：日立環境財団

参加費：無料

野付半島などの視察に参加希望者は事前に連絡してください。

連絡先は、向井（090-8563-1501）または真籠（0153-72-2111 ex.2220）

● 砂浜海岸生物調査のお願い

海の生き物を守る会・OWS

海の生き物を守る会では、セブン-イレブンみどりの基金の後援で、NPO法人OWSと共同で今年から全国の砂浜海岸生物調査を実施しています。日本の砂浜を生き物のために取り戻そうと計画された調査です。調査は誰にでもできる方法で計画されていますので、少しでも多くの方が、多くの海岸でこの調査に参加していただけるようお願いいたします。

ご協力いただける方は、事務局までお申し出ください。方法と調査報告用紙をお送りい

たします。なお、方法と調査用紙は希望者にはメールでもお送りします。当会のホームページ <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html> にも掲載しています。

3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

【関東】

●OWS 海のトークセッション・国際サンゴ礁年特別企画

「ふしぎがいっぱい、サンゴ礁の海」(海の子プログラム)

スピーカー：浪崎直子 (OWS 事務局職員・研究員)

開催日：8月1日(金) 14:00~15:30 (13:30 受付開始)

会場：Nature info Plaza 丸の内さえざり館

千代田区有楽町 1-12-1 新有楽町ビル 1階

交通：JR 有楽町駅 or 東京メトロ有楽町線・有楽町駅徒歩1分

参加費：無料

対象：小学生

定員：先着20名

申込み：OWS 事務局まで事前にお申し込み下さい。

※詳しくは⇒<http://www.ows-npo.org/activity/ts/index.html#42>

●OWS 海の子プログラム

「夏休みネイチャースクール in 伊豆大島」参加者募集

開催日：8月9日(土・夜)~11日(月)

集合：9日 22:30 竹芝栈橋

解散：11日 18:50 竹芝栈橋

開催場所：東京都伊豆大島 トウシキ/筆島周辺の海域

対象児童：スノーケリング経験のある小学3年~中学3年生

定員：8名

参加費：小学生：42,000円 中学生：49,000円

※OWS ジュニアサポーターは2,000円引き

料金に含まれるもの：宿泊費、食費・飲み物代、保険料、集合から解散までの往復交通費、

材料費・教材ツール代、スノーケリングレンタル器材代

申込み・問合せ：OWS 事務局まで、E-mail または電話 (03-5960-3545) にてご連絡下さい。

●「大浦湾の生き者たち」ワッター海の写真展 III

7月15日～21日の1週間、東京・新宿の新宿御苑アートギャラリーにおいて国際サンゴ礁年2008「サンゴ礁展」が開催されます。そこに大浦湾の生きものたち600枚もの写真が登場します。

イベント名：国際サンゴ礁年2008「サンゴ礁展」

日時：年7月15日（火）～21日（月・祝） 9：00～16：30 ※会期中無休

場所：新宿御苑 インフォメーションセンターアートギャラリー

〒160-0014 東京都新宿区内藤町11番地

交通：JR新宿駅南口 徒歩10分

東京メトロ丸の内線 新宿御苑前駅出口1 徒歩5分

地図⇒ http://www.env.go.jp/garden/shinjukugyoen/2_guide/access.html

入場無料

主催：国際サンゴ礁年2008推進委員会

協力：日本サンゴ礁学会保全委員会普及啓発プロジェクトチーム

ダイビングチーム すなっくスナフキン

問合せ：国際サンゴ礁年2008 推進委員会事務局

リードクライム（株） 西直人 mail：sango@leadclimb.co.jp

TEL：03-5819-8331（リードクライム内）FAX：03-5819-6090

●三番瀬(海の日)自然観察会

日時：7月21日（祝日）

集合：ふなばし三番瀬海浜公園バス停 午前9時30分

交通：京成船橋駅南口（JR船橋駅から南へ徒歩2分）で船橋海浜公園行きのバスに乗り、終点で下車。（8：45、9：00、9：20発があります）。また、JR京葉線二俣新町駅からは約2.5km 徒歩25分。駅から約300mのバス停「二俣新道」から上記バスが利用できます。

プログラム：

第一部（午前）観察会

カワウ、ウミネコ、コアジサシ、シロチドリなどの水鳥やカニ、魚、貝、プランクトンなど干潟の生き物を観察。

第二部（午後）

三番瀬を守る集会、ゴミ拾いを行う予定。

持ち物：観察用具、弁当、水筒、ぬれてもよい靴（長靴）、帽子

担当：田久保 TEL 047-434-9824

主催：生きものを見つける実行委員会（三番瀬を守る署名ネットワーク）

●親子でふれる三番瀬 「キッズ見学会」

子どもたちに東京湾最奥の浅瀬・干潟の三番瀬に直接触れさせ、保全や自然再生に関心を持ってもらおうと、「キッズ見学会」を実施し、参加希望の親子を募集する。

見学会は8月20,23の両日。船橋市の三番瀬海浜公園と市川市の千葉県行徳野鳥観察舎・野鳥の楽園を見学。野鳥の楽園では立ち入り制限エリアで観察も行う。

両日とも親子10組20人。対象は千葉県内在住の小学1-5年生と親。見学会の結果を学校の夏休みの宿題や自分のホームページなどを使って紹介してくれる親子を募集する。参加は無料。応募は電子メールで千葉県三番瀬再生推進室へ。問い合わせは、同推進室＝（電）043-223-2439へ。

【中国】

●「直島発・未来につながる環境キャンプ」

日 程：7月23日（水）～25日（金） 2泊3日

場 所：直島（香川県香川郡直島町）<http://www.naoshima.net/access/index.html>

対 象：中学3年生～高校2年生

定 員：25名（最大）

主 催：京都大学大学院地球環境学堂 森川里海連環学分野

後 援：株式会社ベネッセコーポレーション

主な内容：

- ・ 環境観察 ①ウミボタルの観察と実験、②山火事跡の樹木の再生、など
- ・ レクチャー ①「生態系のつながり」、②「廃棄物と地盤環境汚染」、など
- ・ 香川県直島環境センターの見学（「中間処理施設」、「有価金属リサイクル施設」、など）

講 師：

嘉門雅史（京都大学大学院地球環境学堂 学舎長）

夏原由博（ 〃 教授／森川里海連環学）

森本幸裕（ 〃 教授／景観生態保全論分野）

宿 泊：「直島ふるさと海の家 つつじ荘」のパオ（モンゴルの住居。ベッド仕様）

費 用：講義代、宿泊費、食事、チャーターしたバス代など、キャンプの諸費用は無料。

※自宅から直島までの往復交通費は各自負担となります。

●「ハチの干潟交流会」 ～手付かずの自然を受け継ぎたい～

日 程：7月19日（土）～20日（日） 13：00 JR竹原駅集合

交流会会場：広島県竹原市青少年センター3階

主 催：ハチの干潟調査隊

●2008年海洋環境調査

日 程：8月2日（土） 10：10 神戸市メリケンパーク東側通戦船溜 集合
参加費無料

主 催：神戸空港の中止を求める市民の会

●海のアドベンチャースクール

日 程：8月2日（土）～3日（日） 2日10：00～ 兵庫県たつの市御津町岩見港周辺
参加費：一人8,000円

主 催：播磨灘を守る会・アドベンチャースクール実行委（Tel 079-322-0224）

●播磨灘を守る会 第20回エコツアー（予定）

～ 紀伊半島は田辺市天神崎・串本町・熊野古道を訪ねる ～

日 程：8月23日（土）～24日（日）

主 催：播磨灘を守る会（Tel 079-322-0224）

【沖縄】

●「海草の草原に行こう！～夏の海草観察会」

日 時：7月19日（土）13:00-15:30（※12:50までにお越し下さい）

場 所：浦添市港川の海草藻場（キャンプキンザー北ゲート近く）

内 容：海草藻場の自然と生き物観察

講 師：河内 直子（シーグラスウォッチ・ジャパン）、鹿谷 麻夕・法一（しかたに自然案内）

参加費：無料（保険料はこちらで負担します）

参加対象：一般。小学生以下のお子さんは保護者同伴で。

人 数：30名（申込み順；7月17日までに申し込みください。）

申込等、詳しくは nkouchi@seagrasswatchjapan.com まで。

4. 海の生き物とその環境に関する出版物の紹介

●「ボート倶楽部」8月号 舵社（2008 August）

ボート倶楽部8月号の「海を守る人々」欄（pp. 89-93）に、「海の生き物を守る会」の活動が紹介されました。厚岸で行われた第1回講演会・観察会・海藻おしば研修会の様子が紹介されています。

●「有明海異変 海と川と山の再生に向けて」

古川清久・米本慎一（著） 不知火書房 ¥1890（2003）

5. 事務局便り：

- 講演の講師派遣を希望される方は、事務局へお問い合わせください。沿岸の生物やその環境についての問題、沿岸生態系の構造、保全、再生、地球環境問題、環境教育などに関する講演を行うことができます。
- 本会へのカンパをお寄せください。口座は埼玉りそな銀行指扇支店 3896180。
- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- このメールマガジンは、毎月1日と16日の2回発行の予定です。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。
- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や海の生き物を守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひろも」のバックナンバーをごらんになりたい方は事務局までご一報ください。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。

6. 編集後記

暑さが本格的になってきた今日この頃ですが、みなさんお元気でお過ごしですか。21号の「うみひろも」をお届けします。各地での観察会も天候には多少問題があったものの、参加者には喜ばれています。来月は山口県で開催します。ぜひ皆さんお誘いの上、おいでください（宏）

7. 「うみひろも」と「海の生き物を守る会」について

この「うみひろも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。会員および関心を持っていただけると思われる方にお送りしています。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。「海の生き物を守る会」の趣旨および組織の概要は会のホームページ <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html> をごらんください。

会員募集中！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円／年、団体 20,000 円／年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。会員は本会の名前で各地の活動のための助成金申請をすることができます。入会希望の方は、事務局 hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp（向井）まで、氏名、住所、メールアドレス

スをお知らせください。

事務局員も募集中！

事務局を手伝っていただける人を探しています。パソコンが使える環境にあれば近くにいなくてもお手伝いいただけます。ただし、無収入ですので海の生き物の保全・保護に関心とボランティア精神のある方。

メールマガジン『うみひろも』第21号 2008年7月15日発行
発行&編集人「海の生き物を守る会」代表 向井 宏 (090-8563-1501)

〒350-0001 川越市古谷上 6083-7 M-1-212

メールアドレス：hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp

ホームページ URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

銀行口座：埼玉りそな銀行指扇支店 3 8 9 6 1 8 0

